

→ここに注目!

「戦争と平和」を
社会科で教える
ということ

社会科 NAAMI



日文のWebサイト



日文 🔍

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。
令和6年(2024年)度版小学校社会科内容解説資料として扱われます。



心が動く、その先へ。

日本文教出版



表紙写真解説

高千穂峡：宮崎県西臼杵郡高千穂町にある国の名勝、天然記念物。阿蘇山の噴火による火砕流が五ヶ瀬川に沿って流れ、急激に冷やされたことから柱状節理の崖となった峡谷である。奥に見えるのは真名井の滝で、日本の滝百選の一つ。落差が17メートルもあり、ボートから間近で見ると圧巻。
写真提供/アフロ

3

著者だより

主体的・対話的で深い学び

関西福祉科学大学教授 馬野 範雄

4

ここに注目!

「戦争と平和」を社会科で教えるということ

—これからの授業づくりに求められる視点—

立命館大学教授 角田 将士

6

実践ファイル～デジタル教科書・教材を使って～

〔小学校編〕資料を関連づけて読み取ろう

兵庫県姫路市立広峰小学校 喜田 淳志

〔中学校編〕北アメリカ州の農業のこれからを考えよう

兵庫県姫路市立花田中学校 春名 大誠

14

授業力アップをめざす先生のための社会科のABC

〔小学校編〕資料活用と指導のポイント⑥～想像図の活用～

國學院大学教授 安野 功

〔中学校編〕知識で終わらない基本的人権の学びを!

おおさか学びの会代表(元大阪教育大学非常勤講師) 丹松 美代志

16

地域の歩き方 vol.11

マラッカ—東西文化融合の地

国立民族学博物館教授 信田 敏宏

18

ようこそ! 歴史史料の世界へ vol.35

パノラマ地図を読み解く

堺市博物館学芸員 矢内 一磨

20

現代社会ウォッチング vol.21

日本の物価

同志社大学教授 野間 敏克

22

授業にプラス! 身近なSDGs

大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向けて

大阪市環境局環境管理部環境管理課 水環境保全グループ

著者 だより

リレーエッセイ



馬野 範雄(うまの のりお)

専門分野/社会科教育学、生活科・総合的な学習教育学
主要著書/『生活科・総合的な学習の時間の理論と実践』(共著、あいり出版、2021年)、『社会系教科教育学研究のブレイクスルー—理論と実践の往還をめざして—』(共著、風間書房、2019年)、『文化を基軸とする社会系教育の構築』(共著、風間書房、2017年)



主体的・対話的で 深い学び

関西福祉科学大学教授 馬野 範雄

「見方・考え方を働かせて進んで取り組もうとする児童の育成」「対話を深める学びを創出する授業・教材の開発」「個が輝き、共に育ち合う学級をめざして」

最近の校内研修は、現行の学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究テーマで進めている学校が多い。

先日、3年「お店で働く人びとの仕事」の研究授業を見る機会があった。地域にあるお店の写真やお店の位置などを地図で確認した後、おうちの人がよく買い物に行くお店や買った品物を発表していった。「おうちによって買う店や買い方が変わるのにはなぜだろう」という課題(めあて)を設定し、まず自分の意見をノートに書き、班での意見交流を経て、全体交流へとつなげていった。

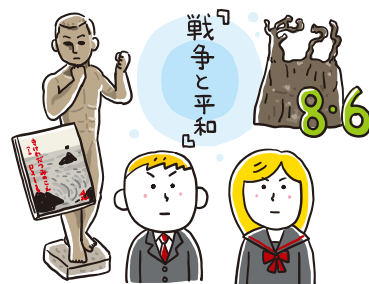
あきらかに、子どもたちの主体的・対話的な姿が見て取れる。全体交流では、「品物が安いから」「近いから」「営業している時間が長いから」など、多様な意見がたくさん出され、教師は「もの」「場所」「時間」という観点で整理し、「分類」という思考力を意識させ、まとめ・振り返りにつなげていこうとしていた。しかし、「意見は整理・分類されているのに、もったいないな」と感じた。

「自分が一番大切だと思う観点はどれかな?」あるいは「お客さんにとって一番うれしい、ありがたいと思うのはどれでしょう?」と問うてみたい。この問いは、販売の工夫を価値づけ(価値判断)ていくことになり、「自分は、～が大切だと思いました。なぜなら、～だからです」などと書かれた振り返りは、深い学びを具現した子どもの「学びの証明」といえるだろう。

「戦争と平和」を 社会科で教えるということ

—これからの授業づくりに
求められる視点—

●立命館大学教授 角田 将士



1 「戦争と平和」と社会科

ウクライナやパレスチナでの軍事的な動向の様子が日々報じられており、子どもたちの中にも「戦争と平和」についての問題意識が高まっていると思われる。そのような中、学校教育とりわけ社会科の授業は、「戦争と平和」について学び、自らの考えを構築していくための機会を提供する貴重な場となるのではないだろうか。

しかし、「戦争と平和」をテーマにしたこれまでの授業には課題も見られた。例えば、戦争に反対する気持ちを高めるために、戦争の悲惨さに対する共感を重視する授業の場合、子どもたちの思考や判断を閉ざし、一つの方向性へ導くものになっていたといえる。これまでの授業に内在する課題や、どうすれば社会科らしい授業となるのかを意識した授業づくりが求められる。

そもそも社会科は、悲惨な戦争に対する反省の上に戦後（1947年）に成立した教科であり、平和で民主的な国家・社会の形成者として「戦争と平和」にどのように向き合い、今の、そしてこれからの社会をどう築いていくかを考えていく学習活動が求められる。その中で、子どもたち自身もつ「戦争と平和」についての見方・考え方^{※1}を成長させる授業づくりを志向したい。

2 これからの授業づくりに 求められる視点

戦後75年を経て、社会が大きく変化している今日、これまでと同じように「戦争と平和」を捉えることが難しくなっている。戦争を直接体験した世代がいなくなりつつある中で、戦争体験がもつ意味をどのように捉え、それらをどのように継承し後世に伝えていくのか、そうした「①ポスト戦

争体験時代への対応」、「②戦争体験の評価の多様性やその変容への対応」といった課題を意識した授業づくりが求められる。ここでは、これらの課題に対応する授業づくりのために必要な視点を示したい。

まず課題①に対しては、戦争体験の継承についての見方・考え方の成長をめざす授業、具体的には、「戦争体験をどのように継承していくか」「戦争体験を継承するとはどういうことか」「なぜ戦争体験の継承は必要なのか」といった問いに基づいて、子どもたち自身が戦争体験の継承の意味を問い直すことで、「悲惨な戦争を繰り返さないために、その体験は継承しなければならない」といった紋切り型の理解から脱却する学習を志向したい（＝視点①）。

こうした視点から授業を構想する際、立命館大学国際平和ミュージアムが2018（平成30）年に開催した企画展覧会「8月6日」が手がかりとなる。同展覧会は、ポスト戦争体験時代を見据え、伝え手と受け手の相互行為として、戦争体験の継

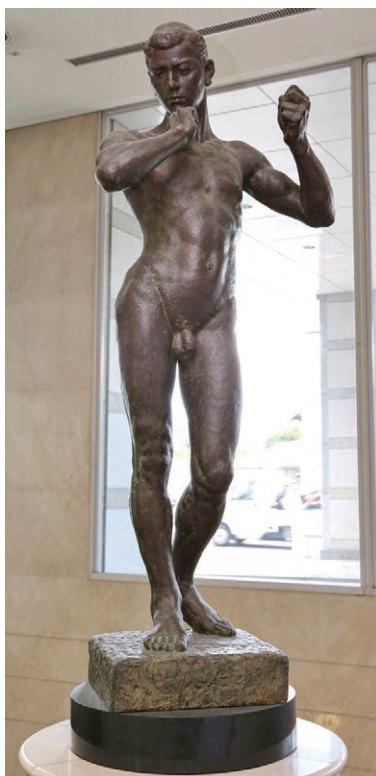


▲「8月6日のワンピース」
（立命館大学国際平和ミュージアム蔵、画像提供）

承の意味を捉え直し、来館者自身にその意味を考えてもらうことを意図して企画された。そこでは、展示資料である「8月6日のワンピース」が調査の結果、それまでの説明とは別人の遺品であることが判明した後もそのまま展示を続け、最後にそのことの是非が問いかけていた。つまり、これまでの来館者がワンピースを通じて感じたものまで覆すことはできないとの考えから、残された資料を正しく伝えることよりも、そこから何を感じ取るのかということ優先させることで、来館者自身が戦争体験の継承の意味を問い直す機会を提供するものになっていた。授業の中で、こうした展示の是非を議論することで、戦争体験の継承についての常識的な見方・考え方を揺さぶり、より深められたものへと成長させることができる。

次に課題②に対しては、「反戦」や「平和」と結び付けて一律に捉えられがちな戦争体験について、多面的・多角的な視点からその意味を問い直し、その継承のあり方について自らの考えを構築する学習を志向したい（＝視点②）。

こうした視点から、1949（昭和24）年に刊行された戦没学徒兵の遺稿集である『きけわだつみのこえ』に対する多様な評価やその変容について考える授業を構想することができる。当初、多くの人々の



▲ 復元された「わだつみ像」
（立命館大学国際平和ミュージアム蔵、画像提供）

戦争に対する思いを代表するものとして、『きけわだつみのこえ』は高く評価されていた。しかし、1960年代に入る頃から、戦没学徒兵が「権力に従順で、抵抗する意志のない存在」として捉えられるようになり、それを象徴するものとして立命館大学に設置されていた「わだつみ像」が、1969年に学生たちの手によって倒されるという事件が発生した。この事件は、戦争体験に対する評価の多様性を示しているといえる。さらに1995年には、高まってきた日本のアジア諸国への加害責任の視点を踏まえた再販本が刊行され、『きけわだつみのこえ』を戦争の加害の側面から捉え直す動きも見られるようになった。このような『きけわだつみのこえ』における戦争体験の評価の多様性やその変容を教材化していくことで、一律に捉えられがちな戦争体験についての見方・考え方をより深められたものへと成長させることができる。

3 「戦争と平和」を社会科で教える際の原則

「戦争と平和」は、日本も含めて多くの国々にとって大きな課題であり、そのあり方を巡っては、国内はもとより、時に激しい国際的な対立を生じさせることもあり、政治的中立性の視点から授業化に悩むことも多いと思われる。まずは、多様な見解を封殺し、一つの方向性に基づいた正解を求めるような特定の立場に絡めとられたものにならないようにすることに留意する必要がある。その上で、どのような問いや教材が、「戦争と平和」についての認識を拡大・深化させ、子どもたち自身がもつ見方・考え方を成長させることができるのかを検討していくことが何より肝要である。

【註】

※1 本稿では、「見方・考え方」を、探究の際に働かせる「視点や方法（考え方）」ではなく、社会を捉える「概念的枠組み」として捉えている。

【参考文献】

角田将士『学校で戦争を教えるということ 社会科教育は何をなすべきか』学事出版、2023年。

● 角田 将士（かくだ まさし）

専門分野／社会科教育学

主要著書／『戦前日本における歴史教育内容編成に関する史的研究—自国史と外国史の関連を視点として—』（風間書房、2010年）、『NG分析から導く 社会科授業の新公式』（明治図書、2022年）、『学校で戦争を教えるということ 社会科教育は何をなすべきか』（学事出版、2023年）

日本文教出版『中学社会』教科書著者



本時の目標

おもな食料の輸入先と輸入量や自給率の移り変わり、消費量の変化などの諸資料を調べ、関連づけて読み取ることにより、食生活の変化について考えることができる。

本時の評価

<思考・判断・表現>

我が国の食料の多くが輸入されていることについて、諸資料を関連づけて考え、表現している。(子どもの発言・ノート)

本時の展開例

児童の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👦…予測される児童の発言

① 導入

🕒 3分

産地マップを確認して、輸入している食料品があったことを想起させる。

👨‍🏫 前に産地マップを作りましたね。全部を各県に分けることができましたか。

👦 ちらしに書かれていた産地を分類しようとしたけれど、外国産のものも多かったよ。

👦 スーパーに行ったとき、段ボールや値札にいろいろな国が書かれていたよ。

指導上の留意点

- ICT 端末で保存しておいた産地マップを再確認させる。
- スーパーの写真に写っている国名の部分をアップで見せる。



学習問題 わたしたちが食べる食料は、どれくらい輸入されているのだろう。

② 展開

🕒 12分

輸入している食料品について話し合う。

👨‍🏫 どんな食料を輸入しているのでしょうか。

👦 バナナやキウイなどのくだものは、輸入しているものが多いと思う。

👦 タコやサーモンも外国産だったよ。

👦 牛肉はオージービーフをよく買うから外国産が多いと思う。

👨‍🏫 それらは、どこからどれくらい輸入しているのか、資料で確かめましょう。

👦 やっぱり牛肉はオーストラリアやアメリカから輸入しているね。

👦 アメリカからたくさん輸入しているね。

👦 中国は矢印が大きい。金額が多いんだね。

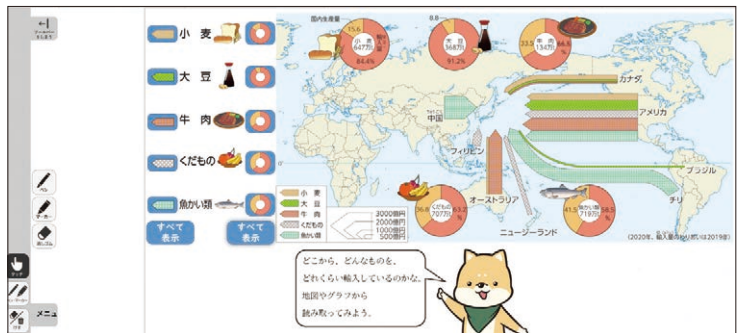
👦 大豆は91.2%も輸入だよ。アメリカやカナダ、ブラジルから来ているね。

👦 矢印で海がうまっている。太平洋を取り囲む国々からたくさん輸入しているんだね。

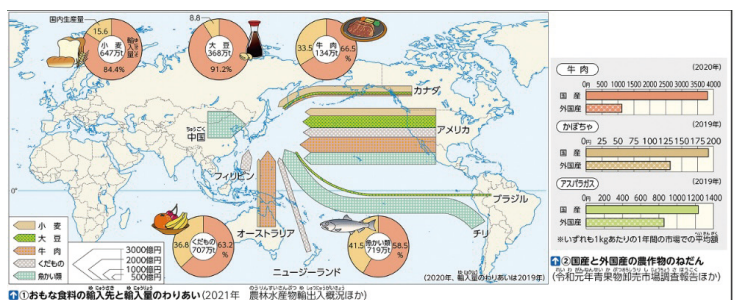
👦 外国産の牛肉の値段は国産の3分の1くらいだよ。安いからたくさん食べられるね。

👦 買い物するならお得なものを選ぶよ。

- ☑ ボタンを用いて、「おもな食料の輸入先と輸入量のわりあい」を凡例ごとに切り替えて表示できるようにし、焦点化を図る。A



- 見開きページ左下の🔍ボタンから「1時間の学習の流れ」を表示させ、「①食料品について話し合う」をクリックし、「国産と外国産の農作物のねだん」も併せて掲示することにより、輸入されるわけについても考えられるようにする。C



児童の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👧…予測される児童の発言

③展開

🕒20分

日本の食生活と食料自給率について調べる。

👨‍🏫 日本のおもな食料の自給率は、どのような変化をしているか読み取りましょう。

👧 米は自給率が高いよ。やっぱり日本は米をたくさん作っているんだね。

👧 大豆はいろいろな食品に加工されるのに自給率がとても低いね。

👧 パンになる小麦も自給率が低いね。

👧 全体的に自給率は下がっているね。

👨‍🏫 1965年と2019年を比べて、消費量が増えたものと減ったものは何か読み取りましょう。

👧 米の消費量は半分に減っているよ。

👧 肉類がたくさん増えているね。

👧 牛乳・乳製品も倍に増えているよ。

👧 牛乳・乳製品の消費量は、米よりも増えているよ。

👧 魚かい類は少し減っているね。

👧 小麦やくだもの、たまごは増えているよ。

👧 肉類と魚かい類が同じくらいの消費量になったね。どちらかという肉類のほうが多いぐらいだよ。

👨‍🏫 食料の自給率と消費量を関連づけて考えてみましょう。

👧 米の自給率はずっと100%ぐらいだから、たくさん作っていると思ったけど、消費量が半分に減っているということは、生産量は減っているんだね。

👧 米は、消費が少ないから生産しなくなったんじゃないかな。

👧 くだものは、1960年の自給率が100%だったのに、だんだん減って行って半分以下になったよ。それなのに消費量は増えている。

👧 くだものの消費が増えているんだしたら、生産したら売れるのに、なぜ自給率は減ったままなんだろう。日本では作れない種類のくだものが好まれるようになったのかな。

👧 肉類も自給率が100%近くあったのに半分くらいに減っているよ。それなのに、消費量は4倍くらい増えている。

👧 飼料の自給率も低いよ。肉類の消費量は増えているから、飼料も外国から輸入しないと国産の肉類が食べられないね。

👧 小麦も自給率が低いのに消費量は増えているよ。輸入にたよっているんだね。

指導上の留意点

👉 ボタンを用いて、「日本のおもな食料の自給率のうつり変わり」を食品ごとに表示できるようにして焦点化を図る。**D**

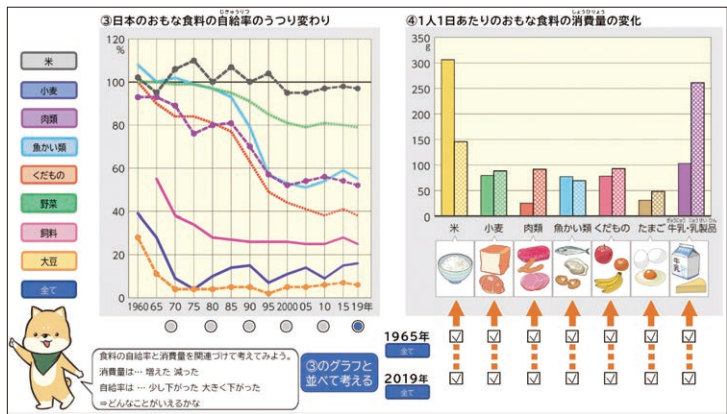
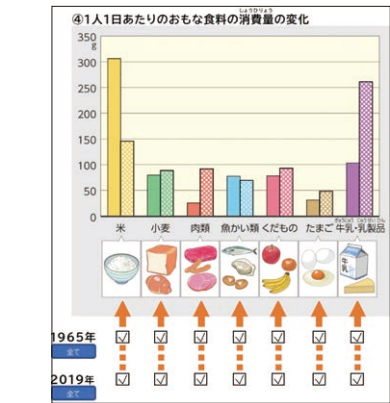
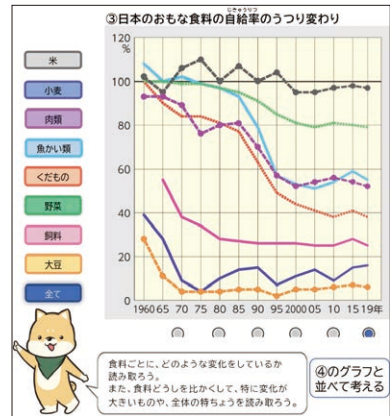
・年を段階的に表示させることにより変化をとらえやすくする。

・「全て」ボタンも活用し、食品どうしの比較や全体の特徴を読み取らせる。

👉 ボタンを用いて、「1人1日あたりのおもな食料の消費量の変化」を食品ごとや年を切り替えて表示できるようにして焦点化を図る。**E**

・2019年のチェックを外して非表示にしておき、1965年から増えるのか減るのかを予想させる。

・「③のグラフと並べて考える」ボタンを用いて、関連づけて考えやすくする。**E**



・「ペン・マーカー」機能を使って、発表で指摘のあった箇所に印をつけることで、クラスのみんが発表内容をとらえやすくする。**B**

・印をつけていくことにより、グラフから読み取ったことをもとに考えるのだと印象づける。

・「けす」機能をこまめに活用することにより、画面に情報量が多くなりすぎるのを防ぎ、読み取りやすくする。

・資料を関連づけて読み取ることは、社会的事象の見方・考え方を働かせる上で重要なため、時間をかけてじっくりと考えさせ、発言をたくさん引き出せるようにする。



本時の展開例

児童の活動と内容

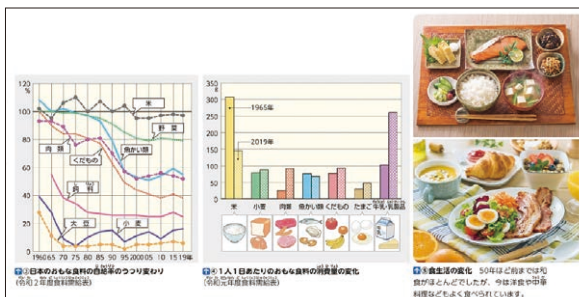
🕒…配分時間

👩…教師の発問・指示・説明例
👦…予測される児童の発言

- ④まとめ 🕒10分
- 調べたことや疑問や予想をもとに、日本の食生活の変化について考える。
- 👩 日本の食生活はどのように変化しているのでしょうか。
 - 👦 昔は上の写真みたいな和食だったけど、今は下の写真みたいな洋食をよく食べるようになったと思うよ。
 - 👦 洋食は自給率が低い食品が多いね。
 - 👦 和食は自給率がそこまで低くないけど、大豆のようにとても低い食品もあるね。
 - 👦 外国産は安いからお腹いっぱい食べられるよ。でも、なぜ外国産は安いんだろう。
 - 👦 輸入のおかげで、食生活が豊かになってよかった。
 - 👦 輸入にたよっているけど、何か問題はないのかな。

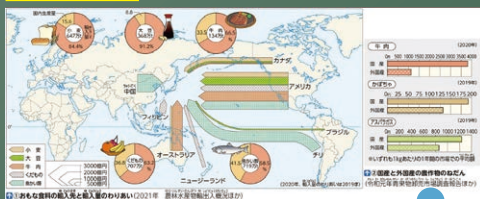
指導上の留意点

- ・単独拡大機能を用いて食生活の変化の写真を掲示し、何の食品を使っているかをわかるようにする。
- ・「1時間の学習の流れ」タブからグラフも併せて掲示することにより、調べたことをもとに考えられるようにする。



わたしたちが食べる食料は、どれくらい輸入されているのだろう。

産地マップ 輸入している食料品が多い。

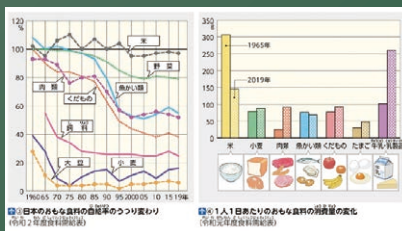


どんなものを、どこから、どれくらい輸入

- 小麦 アメリカ、カナダなど 84.4%
- 大豆 アメリカなど 91.2%
- 牛肉 アメリカ、オーストラリアなど 66.5%
- 魚介類 中国、チリなど 58.5%

ねだん

外国産の牛肉は国産の半分以下のねだん。
かぼちゃもアスパラガスも外国産は安い。



自給率のうつつかわり

米の自給率は高い。
大豆や小麦はとても低い。
全体的に日本の自給率は下がっている。

消費量の変化

米の消費量は半分減った。
肉類は4倍近くまで増えた。
牛乳・乳製品は米より消費量が増えた。

食生活の変化

<50年ほど前>
和食
米や魚
<今>
洋食
パンや肉



自給率が低いものを輸入している。
消費している食料が変わってきた。
なぜ、外国産は安いのか。

多くの食料を輸入しているおかげで
食生活が豊かになった。

輸入にたよっているが、食料生産に
問題はないのか。

板書のPoint

今見ている資料は画面に映し、板書には関連づけるために見返す資料を残す。

それぞれの資料からわかったことを板書することで、つなげて考えやすくする。

矢印の先に関連づけたことをまとめて書くスペースを用意し、随時書けるようにしている。



広島大学大学院准教授 永田 忠道 先生からの

ここがキラリ

前回の学習指導要領実施状況調査で、小学校の社会科学では複数の資料から読み取った情報を相互に関連づけて考え表現することに課題があるとされています。喜田先生の実践は最新のデジタル教材の即時性や柔軟性をいかすことで、この社会科学習の課題と壁を乗り越える手立てが巧みに組み込まれています。単体や複数の資料をただ見つめるだけでは見えづらいポイントを、デジタルツールの活用で可視化できるヒントをつかめた子どもたちは、資料を関連づけて読み取ることで見えてくる社会の実態に迫る力をさらに高めていけるのではないのでしょうか。

り越える手立てが巧みに組み込まれています。単体や複数の資料をただ見つめるだけでは見えづらいポイントを、デジタルツールの活用で可視化できるヒントをつかめた子どもたちは、資料を関連づけて読み取ることで見えてくる社会の実態に迫る力をさらに高めていけるのではないのでしょうか。



地理的分野

デジタル教科書・教材を使って

北アメリカ州の農業のこれからを考えよう

●兵庫県姫路市立花田中学校 春名 大誠



全国各地の自治体で生徒1人1台端末が実現し、学習におけるハード面の整備が進められ、様々な形で活用が進められている。デジタルネイティブな生徒にとっても、学びやすい環境が整ってきた。その一方で、日々の業務の忙しさから、教材研究や新たなデジタルツールの導入になかなか時間がさけないことも事実である。よりよい授業づくりを行いたいという思いと、他の業務に時間をとられているもどかしさを感じている教員は少なくないだろう。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現が叫ばれる今、生徒に何を学ばせるのかを、教員がしっかりと考えなければならない。これらの問題を解決するために、デジタル教科書を活用することが必要である。デジタル教科書を活用し、教員の働き方改

革と生徒の深い学びの両立を実現させたい。

本実践では、適地適作や企業的農業など北アメリカの農業の特色を、その影響力の原因を考える中で理解させた上で、今後の北アメリカの農業について考えさせる。その際、これまで学習した他地域の農業や北アメリカの地形・気候と比較、関連付けさせることが必要である。学習者用デジタル教科書を用いることで、例えば、主題図で降水量や農業分布を凡例別に表示したり、動画を用いて視覚的に理解したりすることで生徒が主体的に取り組める。短縮された読み取りの時間を、北アメリカの農業が抱える課題やこれからの姿を考える時間に充て、これまでの実践を、「今」求められる授業の姿へと変化させていく方略を模索したい。

①センターピボット方式によるかんがい農業、②動画

- ・写真を拡大表示でき、細部まで特徴を把握することができます。
- ・動画でさらにかんがい設備のイメージを沸かせることができます。

③アメリカ・カナダの農業

- ・地図を凡例別に ON/OFF を切り替えることができます。
- ・降水量の境界線・農業や農作物の種類を重ね合わせることもできます。

1 中心ピボット方式によるかんがい農業 (2013年, アメリカ/コロラド州)

2 世界の食料庫, 北アメリカ

3 アメリカ・カナダの農業

5 小麦・とうもろこし・大豆の国別生産量と国別輸出量、肉牛の飼育

④重要語句

- ・巻末の用語解説に掲載されている重要語句は、クリックすると解説文がポップアップで表示されます。

⑤小麦・とうもろこし・大豆の国別生産量と国別輸出量、肉牛の飼育

- ・グラフや写真を拡大表示することで、読み取りやすくなります。

⑥スキルUP、深めよう、確認

- ・教科書に掲載されている問いの解答例を表示することができます。

本時の目標

- ・企業の農業や適地適作など、北アメリカの農業の特色を、地図やグラフ、写真などの資料から理解する。
- ・北アメリカの農業の課題を多面的・多角的に考察し、農業のこれからの姿について、根拠をもって表現する。

本時の評価

- <知識・技能>北アメリカの農業の特色や世界への影響を、地図やグラフ、写真などの資料から理解している。
- <思考・判断・表現>北アメリカの農業の課題、これからの姿について、根拠をもって考察し表現している。

本時の展開例

生徒の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👧…予測される生徒の発言

導入

🕒 5分

農産物の生産量・輸出量のグラフから学習課題を把握する。

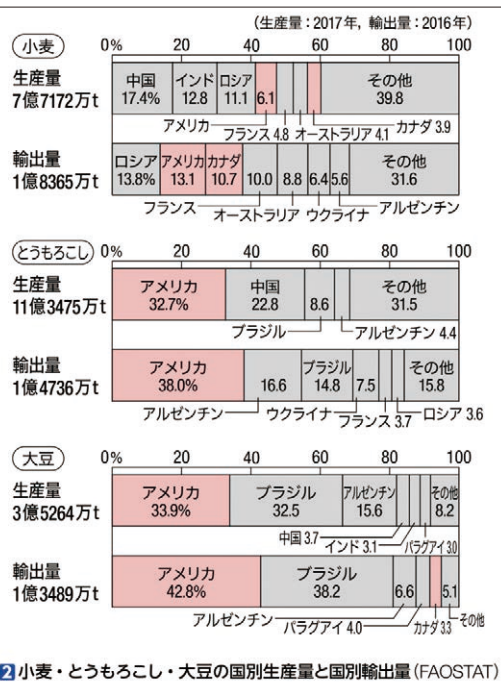
👨‍🏫 前は北アメリカの自然環境について学習しました。そんな自然環境と密接にかかわる北アメリカの農業について学習します。北アメリカは「世界の食料庫」といわれています。それはなぜでしょう。

👧 たくさんの農作物を生産して、輸出をしているから。

👨‍🏫 そうですね。グラフで確認してみましょう。たくさんの農産物を生産し、輸出して世界に影響を与えていることがわかります。ではなぜ、このように大量に生産・輸出し、世界に影響を与えることができるのでしょうか。

指導上の留意点

5



- ・教科書の図2を単純拡大表示し、小麦について生産量と輸出量を比較させ、中国と北アメリカの農業の特徴の違いに気づかせる。中国が国内での消費が多いのに対し、北アメリカでは輸出に回る量が多いことを把握させ、世界とのつながりを意識させる。

学習課題 なぜ、北アメリカの農業は、世界に大きな影響力をもち続けているのでしょうか。

展開

🕒 35分

学習課題に対する予想を立てる。

👨‍🏫 北アメリカの農業が、世界に影響を与えている原因を予想しましょう。

👧 広い土地でたくさんの農産物を生産でき、輸出できる。

👧 北アメリカでは大型の機械を利用して農産物の生産量を増やしている。

👧 様々な気候の特徴を利用して、色々な種類の農産物を生産している。

- ・教科書 P.83 図3 カナダの小麦の収穫のようすや、教科書 P.84 図1 地形図、図3 雨温図を想起させ、前時に学習した自然環境と本時の農業とを関連付けることで、すでに獲得している「人と自然とのかかわり」の見方・考え方を働かせ、予想しやすいようにする。

本時の展開例

生徒の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例
 👧…予測される生徒の発言

資料を読み取り、予想を検証する。

👨‍🏫 デジタル教科書の資料を活用して、北アメリカの農業が、世界に影響を与えている原因を考察しましょう。これはアメリカのコロラド州にある畑のようすです。どのような特徴がありますか。

👧 畑の形が円形になっている。

👧 大型の機械を使っている。

👨‍🏫 そうですね。なぜ、このような形なのでしょう。

👧 スプリンクラーが円形に回転しながら、肥料や水をまいているから。

👨‍🏫 そうですね。ではなぜ、スプリンクラーのような大型の機械を導入しているのでしょうか。

👧 広い農地だから。

👧 少ない人手でたくさんの農産物を生産するため。

👨‍🏫 北アメリカの気候にはどのような特徴がありましたか。

👧 西経100度を境に、西側の降水量が少なく、東側の降水量が多い。

👨‍🏫 このような気候の特徴から、北アメリカの農業はどのような特徴があるのでしょうか。

👧 降水量が少ない西側では、放牧が盛ん。

👧 降水量が多い東側では、とうもろこしや大豆の栽培が盛ん。

👧 東側の五大湖周辺では酪農も行われている。

👧 気候や土壌に合わせた適地適作がされている。

👨‍🏫 このようにその土地にあった農産物を大量に生産しています。その中で、穀物を扱う大企業を穀物メジャーといい、世界市場に大きな影響を与えています。

放牧をする地域では、フィードロットという図4のような肉牛を集めて育てる施設もあります。写真からわかることを挙げましょう。

👧 たくさんの肉牛が1か所に集められている。

👧 牛が柵から顔を出してえさを食べている。

👧 放牧した肉牛に栄養価の高いえさを食べさせて肉の質を高めている。

👨‍🏫 そうですね。このようにしてよりおいしい牛肉の大量生産を行っていますね。

指導上の留意点

・資料の読み取りについては、各班ですべての資料を読み取る方法や班ごとに読み取る資料を指定して分担する方法などが想定される。学習者に応じた手法を用いることが望ましい。

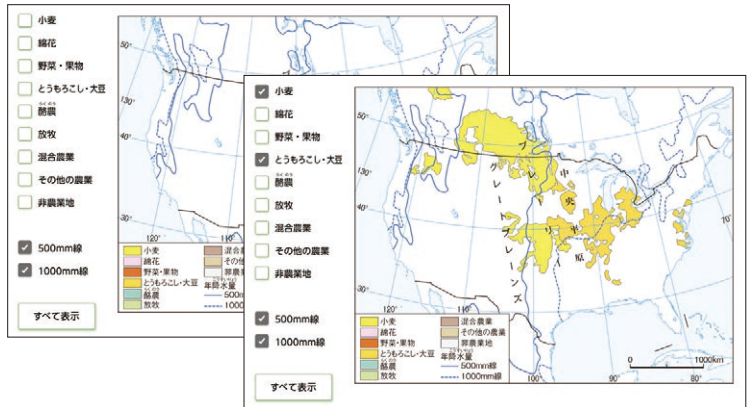
※ここからの学習過程は班活動を想定しているが、ここでは問答の展開例を提示する。(班活動の場合は、机間指導の際に活用できよう。)

① ②



・教科書の図1を単純拡大表示し、センターピボット方式を使った畑の形を確認させる。また、動画を用いてなぜ円形になっているかを視覚的に捉えさせ、大型機械を導入した農業のようすをイメージしやすくする。

③



・教科書の図3を、農業や農産物の種類ごとに表示していく。はじめから塗り分けられた図を用いるよりも、凡例別で表示することで、降水量とのつながりを意識しやすくなる。

⑤



・教科書の図4を単純拡大表示することで、肉牛が柵の外に向かってえさを食べているようすをつかませる。周りの道路を、えさを積んだダンプカーが通ることによってえさを補充していることを想起させる。

本時の展開例

生徒の活動と内容

🕒…配分時間

👨‍🏫…教師の発問・指示・説明例

👧…予測される生徒の発言

北アメリカの農業の課題とこれからどのように変化するかを考える。

👨‍🏫 ここまでに読み取ったことから、北アメリカの農業にはどのような課題があり、どのように変化するでしょうか。

👧 大量生産を目指すあまり、安全性や環境への配慮が欠けている。

👧 穀物メジャーによって、高い価格の設定が行われる可能性がある。

👧 地球温暖化の影響で気候が不安定になり、農産物の生産が減少することで、価格の高騰につながりかねない。

👧 SDGs に関心が集まっているため、大量生産と食の安全性を両立する企業が成長する。

まとめ

🕒 10分

学習課題に対する答えを記述する。

👨‍🏫 北アメリカの農業が世界に与える影響とその理由を書きましょう。

指導上の留意点

・資料の読み取りにかかる時間が短縮されている分、ここでは北アメリカの農業の課題やこれからの農業の姿を考察させる。その際、ワークシートを工夫することで、様々な取り組みや特徴と課題が関連付けられるようにする。例えば、資料から読みとったことを記入する枠の横に、課題を書き込む枠を用意することなどが考えられよう。(下の板書例を参考にされたい。)

・北アメリカの農業だけの課題ではなく、世界全体の課題だと認識させ、自分事として捉えさせるとともに、グローバルな視点を養うことで、「地域どうしのつながり」の見方・考え方を獲得させる。また、企業の社会的責任を想起させたり、生産量と市場価格との関係性を捉えさせたりすることで、主に公民的分野の学習で獲得する「効率と公正」などの見方・考え方や市場原理の学習につなげたい。

・時間があれば何名かうまくまとめているものを紹介させ、今後の授業でのまとめやふり返りを書く視点を獲得させる。

学習課題

なぜ、北アメリカの農業は、世界に大きな影響力をもち続けているのでしょうか。

予想

- ・広い土地で生産している。
- ・大型の機械を利用して生産量を増やしている。
- ・気候に合わせて、色々な種類の農産物を生産している。

検証

- ・**広大な土地で大型の機械**を利用して、**少ない人手で効率よく**生産して、さまざまな国に輸出している。
- ・気候の特徴を生かした**道地適作**が行われている。
- ・**穀物メジャー**をはじめ、**企業の農業**が行われている。

農業の課題とこれから

- ・安全性や環境への配慮が欠けている。
- ・穀物メジャーによって、高い価格の設定が行われる可能性がある。
- ・地球温暖化の影響で気候が不安定になり、農産物の生産が減少することで、価格の高騰につながりかねない。
- ・SDGs に関心が集まっているため、大量生産と食の安全性を両立する企業が成長する。

板書のPoint

学習課題を板書し、ノートやワークシートに記入させ、課題意識や見通しをもたせる。

生徒の予想を記述し、学習に見通しをもたせ、検証内容と照らし合わせることができるようにする。

生徒の意見を書く。検証内容との関連性を意識させ、新たな課題や農業のこれからのイメージさせる。

筑波大学教授 井田仁康先生からの

ここがキラリ

北アメリカ州の農業の特徴を、資料を拡大して考察させ、また、複数の資料を使って要因を考察させるなど、生徒の主体性を促すデジタル教科書を効果的に使った授業となっています。この授業の最大の特徴は、こうしたデジタル教科書を使って時間を節約す

ることで、北アメリカ州の農業の課題を見出させ、生徒自らが将来を見通す力を育成しようとしている点です。正解がみえない、正解がない課題について、生徒同士が意見交換を行い議論していくことで、より一層「対話的な」そして「自分事」として捉えられる授業となっていきます。

小学校編

資料活用と指導のポイント⑥

～想像図の活用～

● 國學院大學教授 安野 功

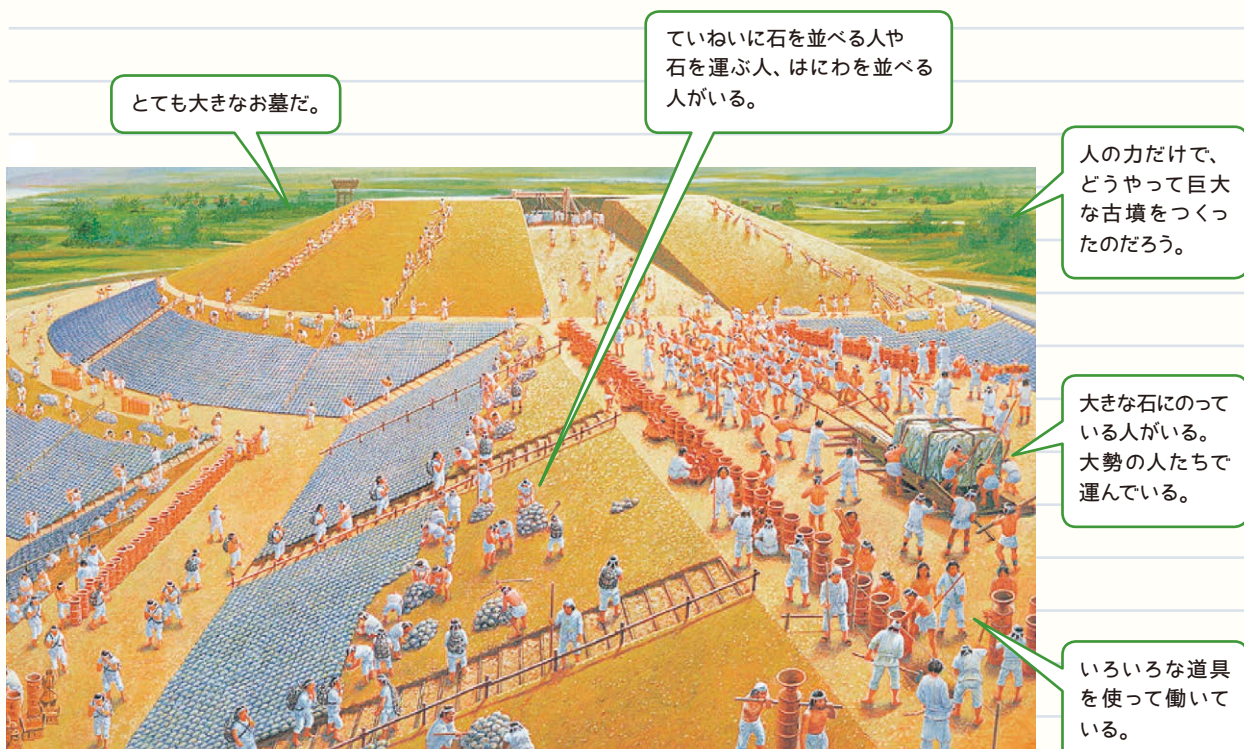
6年の歴史学習では、様々な想像図を活用します。以下、「国が統一される（大和朝廷による国土統一）」のなかで用いる「古墳づくりのようす」（想像図）を取り上げ、その活用法を述べていきます。

まず、大仙（仁徳陵）古墳の航空写真などを用いてその大きさに驚きをもたせます。そして、日本で一番大きい前方後円墳であること、古墳が王や豪族の墓であることを教科書などでおさえます。

次に、「古墳づくりのようす」（想像図）を提示し、「古墳のどの部分か」「どのような作業をしている人があるのか」などと問いかけ、「人の力だけで、どうやって巨大な古墳をつくったのだろう」など

の「素朴な問い」を引き出します。そして、教科書などを使って、のべ680万7000人の人手で15年8か月の工事期間、約796億円の費用をかけてつくったと推定されていることをおさえます。それらをもとに、「そこまでして、なぜ、こんな巨大な古墳をつくったのか」「巨大な古墳に葬られた王や豪族とは、いったいどんな人か」などの疑問を引き出し、追究の見通しをもたせていきます。

想像図は、遺物や遺跡、文化遺産などを関連づけて活用しよう！



⑥ 古墳づくりのようす（想像図）

タイトル

● おおさか学びの会代表（元大阪教育大学非常勤講師） 丹松 美代志

● 教科書に見る基本的人権

日本文教出版の公民的分野の教科書では、中単元「日本国憲法と基本的人権」の中で、「差別のない社会へ」という小単元を設定しています。そこでは、「部落差別」「アイヌ民族への差別」「在日韓国・朝鮮人差別」を取り上げています。そこで、今号では、アイヌ民族への差別をどう扱うのかを考えてみたいと思います。

は95.1%（全道は98.8%）、大学進学率は33.3%（全道は45.8%）と格差が歴然とし、アイヌ民族が劣悪な状況に置かれていることは明白です。

「アイヌ施策推進法」には、次のような条文があります。

（国民の努力）

第六条 国民は、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現に寄与するよう努めるものとする。

● アイヌ民族を巡る状況

- ・1997年 「アイヌ文化振興法」制定：「北海道旧土人保護法（1899）」を廃止
- ・2007年 国連総会で「先住民族に関する国際連合宣言」を採択→アイヌ民族は積極的に参加。1992年、国連に招待された北海道ウタリ協会（現在の北海道アイヌ協会）の野村義一理事長が総会で演説。
- ・2008年 衆参両議院が「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」を採択
- ・2008年 「洞爺湖先住民サミット・アイヌモシリ2008」を開催
- ・2019年 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）の制定

上記年表で注目したいのは、「国際連合宣言」にしても、北海道での主要先進国首脳会議（洞爺湖サミット）に呼応した「洞爺湖先住民サミット」にしても、アイヌ民族が自ら立ち上がっているということです。1997年には「北海道旧土人保護法（1899）」を廃止して、「アイヌ文化振興法」が成立しますが、アイヌの人たちは、それに先立って1984年に「アイヌ民族に関する法律」（案）を提示しています。

その法律案の中で、「いま求められているのは、アイヌ民族的権利の回復を前提にした人種差別の一掃、民族教育と文化の振興、経済自立対策など、抜本的かつ総合的な制度を確立することである。」と主張しています。

● アイヌ民族教育の現状

北海道庁の調査によると、2017年度のアイヌ民族の生活保護率は36.1%（全道は32.1%）、高校進学率

アイヌ民族に対する差別解消は、今や北海道だけではなく国民的課題となっています。そこでは、教科書に記載のある社会科教育の役割が大きいと思います。

● 先行研究に学ぶ

学会レベルで、アイヌ民族・先住民族の教育研究に本格的に取り組んだのは日本社会教育学会が初めてです。同学会では、アイヌ民族の参加と討議を経て、その成果



を『アイヌ民族・先住民族教育の現在』（東洋館出版社、2014年学会誌58集）にまとめています。先生方には、実践に先立って、是非、同書を参考にさせていただきたいと思います。

● マイノリティの声に耳を傾けるところから

人権問題の学習を知識で終わらせないためには、マイノリティの声に耳を傾けるところから出発したいものです。直接、聴くことが困難であれば、ユーチューブ動画なども活用できます。「アイヌ民族が暴言や暴力にさらされ、就職や結婚に関する差別が放置され、再生産される環境は一般の人々の意識がつくったものです。」[北海道新聞デジタル 2022.9.30] という坂田美奈子さん（先住民族研究者）の言葉をかみしめたいと思います。そして、坂田さんは、北海道が、その後の朝鮮や台湾と同様に「入植植民地」であったと述べています。同化政策の本質を見抜いた発言だと思います。

マラッカ —東西文化融合の地

●国立民族学博物館教授 信田 敏宏



1 マラッカの街並み。うなぎの寝床のような家々が立ち並んでいる。



2 オランダ広場近く、派手なベチャと観光客

東西交易の中継地

遠い昔からマラッカ海峡は海のシルクロード最大の要衝であった。その中央に位置するマラッカ王国には、東は中国から、西はインド、アラブ、果てはヨーロッパから様々な民族衣装に身を包んだ商人たちが集っていた。貴重な交易品を船に積んで来航し、港では多くの言語が飛び交っていたのである。当時の王国はマレー人のほか中国人やインドのイスラム教徒の商人やヒンドゥー教徒の商人、アラブのイスラム商人などが行き交う国際都市であったという。マラッカが繁栄したのは、訳がある。季節風（モンスーン）に乗って海を渡ってくる帆船は、季節風の向きが変わるまで、つまり東向きの風が西向きに変わるまで、マラッカで風待ちをしていたのであ

る。季節風の交差点、これがマラッカ繁栄の一因なのである。

マラッカ王国はスマトラ島から逃げてきた王子パラメスワラが建国した国である。15世紀に国王がイスラム教に改宗したことを契機にマレーシア全体にイスラム教が広がっていった。しかし、16世紀に入るとポルトガルによる攻撃を受け占領され、その後、オランダ、イギリスの支配地となった。

世界遺産の街

観光地として有名なのは、マラッカ川の東側に位置するオランダ広場であろう。ヨーロッパ文化の香り漂うサーモンピンクのレンガで建てられたコロニアル調の建物のそばには、派手な三輪自転車（ベチャ）や土産物の露店が並んでいて賑やかである。そこ



●場所	マラッカ
●人口	約 45 万人
●面積	約 298km ²
●訪問時期	2006 ~ 2016年
●訪問目的	マラッカ近郊にあるオランダスリ博物館の視察
●アクセス	クアラルンプール国際空港からバス・タクシー



3 マラッカの地図

からほど近いセントポールの丘の麓には、ポルトガル植民地時代にオランダの攻撃を防ぐために造られたサンチャゴ砦、丘の上には当時キリスト教布教の拠点であったセントポール教会の跡地があり、いずれも大航海時代を体感できる遺跡である。復元されたマラッカ王国の王宮は、現在は博物館になっており、マラッカの歴史を知ることができる。

マラッカ川の西側に行ってみよう。そこは、ババ・ニョニヤの街と言われるチャイナタウンだ。ババは中国系移民とマレー人女性の間に生まれた男子、ニョニヤは女子のこと。15世紀に移住してきた中国系移民の末裔で、プラナカンともいう。チャイナタウンの狭い道路の両側には、レストラン、骨董品屋、土産物屋、衣料品店、雑貨店などが軒を連ねていて、街歩きが楽しい。レストランで振る舞われるニョニヤ料理は、中華料理とマレー料理を融合した料理で、ココナツミルクや香辛料を使った辛くて甘い独特の味が舌を刺激する。衣料品店のショーウィンドウには、刺繍やビーズで美しく装飾されたクバ



4 チャイナタウンの裏通り



5 セント・フランシス・ザビエル教会

ヤという服が並び、異国情緒を盛り上げている。

マラッカから日本へ

日本とマラッカをつなぐものといえば、フランシスコ・ザビエルとヤジロウの出会いであろう。人を殺してマラッカに逃れていた薩摩出身の武士ヤジロウが、懺悔をするためにセントポール教会へザビエルに会いに行ったのである。日本人の人柄や勤勉さに魅せられたザビエルは、日本での布教を決意したという。ザビエルが薩摩に上陸したのは1549年のこと。オランダ広場近くには、セント・フランシス・ザビエル教会が建てられ、白亜の壁と美しいステンドグラスがザビエルを讃えている。

文化と人がとけあう街

マラッカはマレーシアの人たちにとって「心のふるさと」だという。マレーシア最古のモスクや寺院もあり、歴史の奥深さを感じさせる街である。多民族国家と呼ばれるマレーシアの中でも、古来よ

リヨーロッパ、中国、マレーの文化が融合されたこの街は、外国人観光客だけでなく、マレーシア国内の人々をも魅了する。

日中の暑さが少しましになった頃、マラッカ海峡の夕陽を見に行ってみた。太古の昔より大きな帆船が様々な民族やお宝を乗せて行き交い、時には戦い、奪い合ってきた海峡。かつて海のシルクロードの中継地として繁栄を極めたマラッカの地にたたくみながら眺める海峡は、とても静かであった。何度でも訪れたい街である。



● 信田 敏宏
(のぶたとしひろ)

専門分野／社会人類学・東南アジア研究
 主要著書／『家族の人類学—マレーシア先住民の親族研究から助け合いの人類史へ』（臨川書店、2019年）、『ドリアン王国探訪記—マレーシア先住民の生きる世界』（臨川書店、2013年）、『周縁を生きる人びと—オラン・アスリの開発とイスラーム化』（京都大学学術出版会、2004年）など
 日本文教出版『中学社会地理的分野』教科書著者

パノラマ地図を読み解く

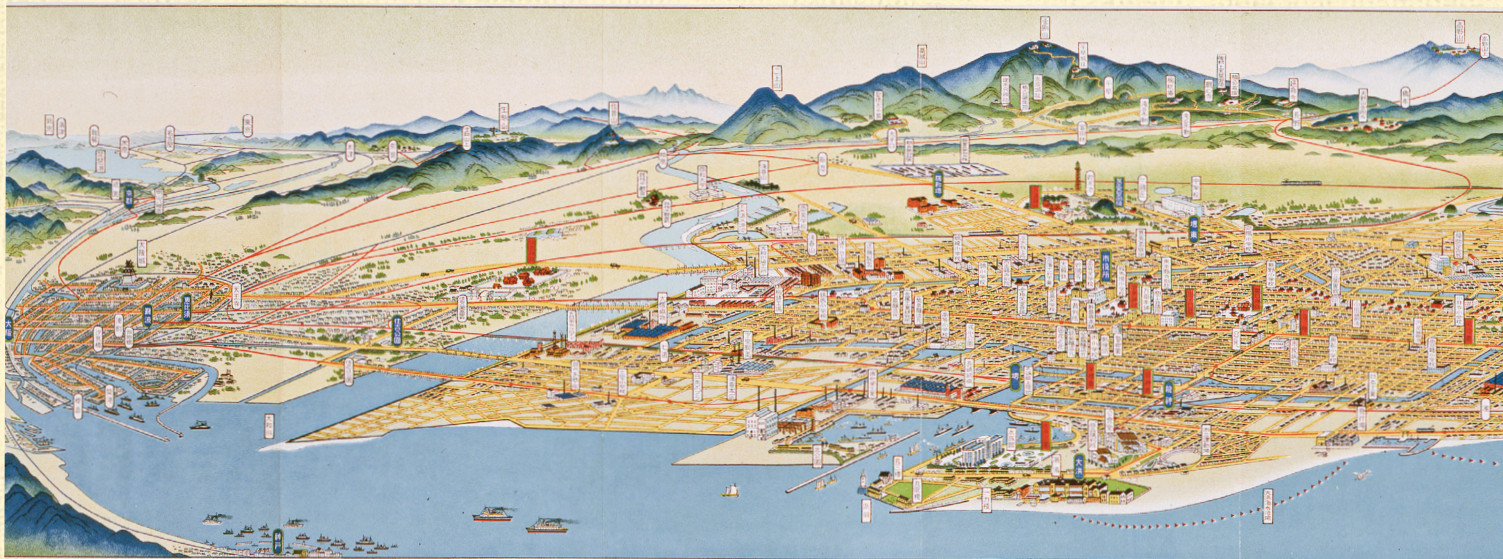
●堺市博物館 学芸員 矢内 一磨

吉田初三郎のパノラマ地図

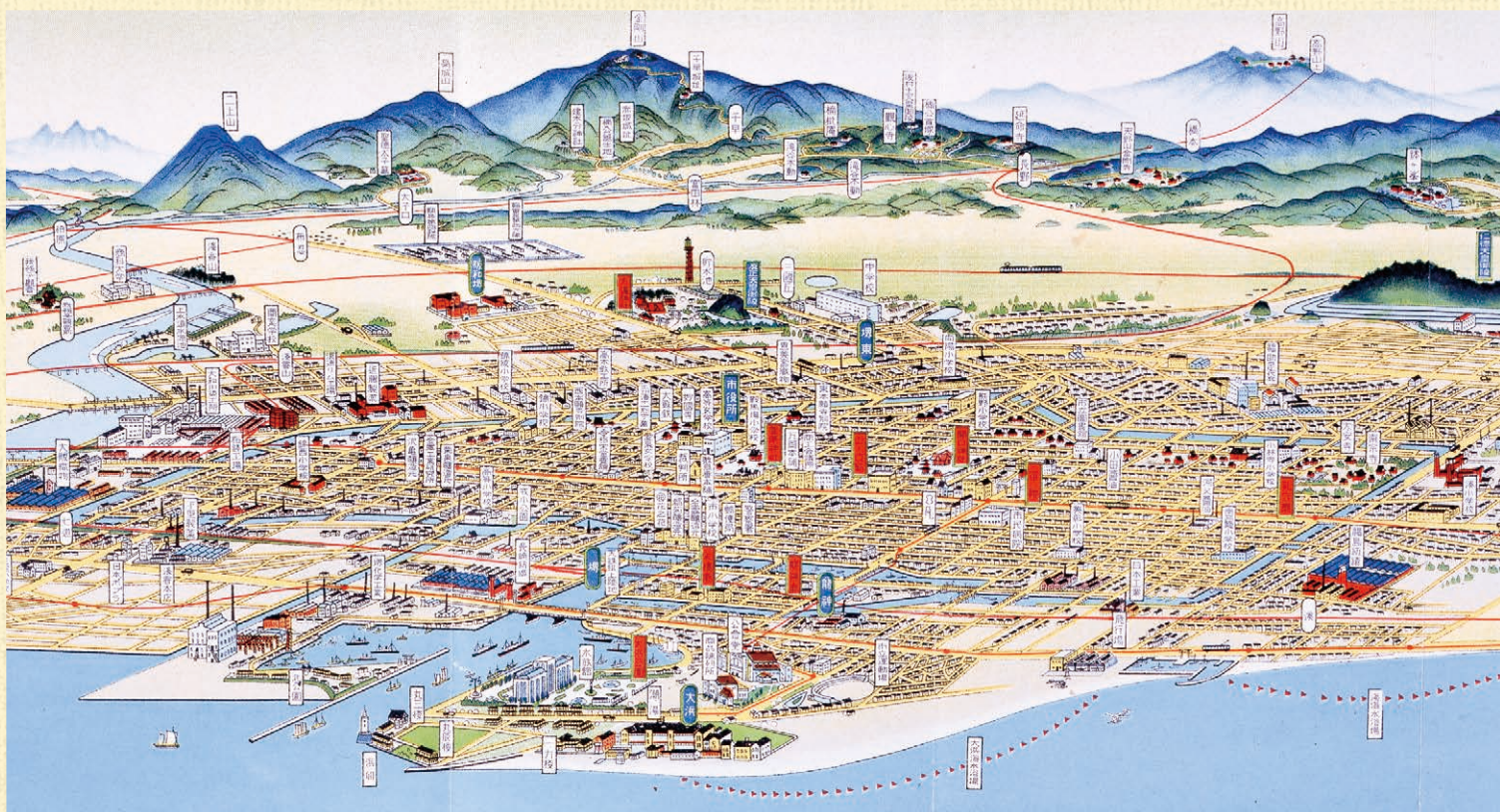
吉田初三郎（1884～1955年）は、大正時代から昭和時代にかけてパノラマ式の観光図・鉄道図・都市図、ポスター、絵葉書、文筆を通じて、近代日本の観光文化に大きな影響を与えたアーティスト

トです。その特徴的なデザインと色使いは多くの人の心をとらえます。当時の人々は「大正の広重」と呼んで、初三郎の作品を歓迎しました。

京都に生まれた初三郎は最初、友禅のデザインを学びますが、洋画家を志しフランスで洋画を学んだ鹿子木孟郎（かのこぎたけしろう・1874～



▲堺市鳥瞰図印刷図（全体図・1935年堺市博物館蔵）



▲同図部分拡大

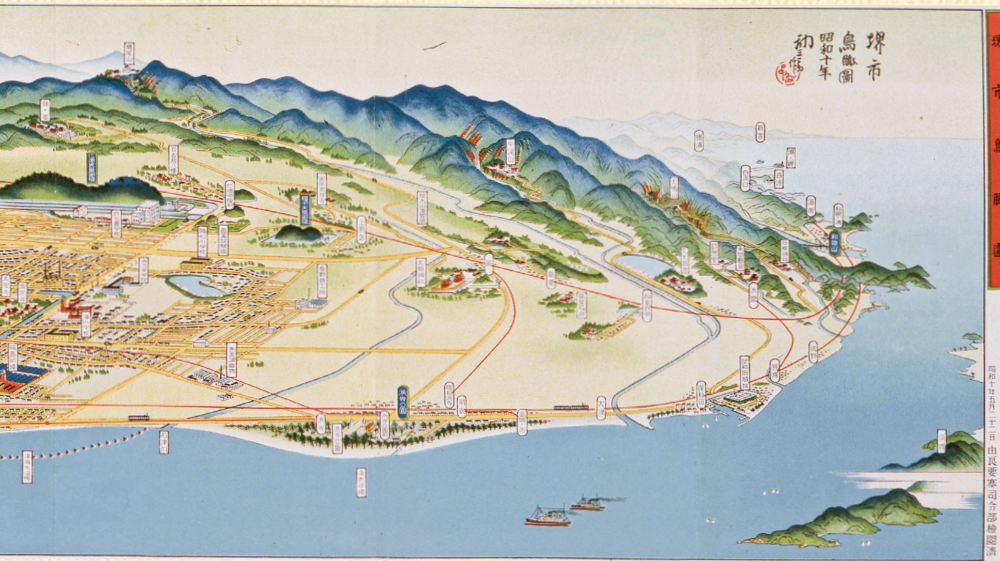
1941年)に入門します。

ところが洋画家への道は険しく、生活は困難を極めます。そのような初三郎に鹿子木は、パリでの洋画修業の経験から、フランスでは一流の大家が広告やピラを描くことを教え、民衆のための応用芸術を手がける人が洋画界から出ることの大切さを説き、商業デザインへの転進を薦めます。

鹿子木はパリで、商業美術の分野の開拓者のひとりであったアルフォンス・ミュシャ(1860～1939年)に短期間でしたが学んだ経験がありました。初三郎への指導の背景には、ミュシャの活躍

いたパノラマ地図作品として多くの堺市民に愛されており、さまざまな場所で使われています。

1935年に堺市役所産業課は、観光客を呼ぶことを目的に、観光協会を組織することを計画しました。その準備として鳥瞰図・パンフレットの制作を、観光鳥瞰図の制作で高名な吉田初三郎に委嘱します。同年3月13日の大阪毎日新聞は、初三郎が11日に堺へ入り、早速に堺警察署の檣の上から市内を展望、翌日は菅原・開口神社、南宗寺、大安寺などへ参拝したこと、向こう一週間ほど大浜海岸の丸三樓に滞在することを報じています。



初三郎は「堺は初めてです。ちょっと見ると工場街となった汚れた町のように思われますが、静かに見入っていると整然とした街区のなかに古い香りが漂っているようで本当に気持ちのよい町です」とコメントをしています。

印刷図の裏面は堺市の概説、沿革、観光名所などを記した同市の観光案内となっています。百舌鳥三陵、堺水族館、大浜公園、大浜飛行場、大浜潮湯、開口神社、菅原神社といった名所旧跡が短い文章で、コンパクトに紹介され

があったことは想像に難くありません。初三郎はミュシャに直接会ってはいませんが、間接的に大きな影響を受けたといえます。

初三郎の作品は、鳥瞰図、名所図、パノラマ地図などと呼ばれます。横300cmほどの巨大な原画をもとに、印刷職人が石版や銅版で下図をつくり、縦15cm×横77cmくらいの横長のカラフルな印刷図を作成します。縮尺を度外視してランドマークを誇張して描く画面は、本来見えないものも入れていきます。作品には富士山を描き込むことがお約束です。

精密な地図を想像して手に取ると全く異なった画面に驚きますが、その意外性が初三郎のパノラマ地図の魅力といえるでしょう。

ています。

堺は1934年の室戸台風で大きな被害を受け、復興の途上がありました。倒壊した市役所は現地で再建するのか、別の場所に建てるのかを検討中でした。この図では、現地で再建した姿が描かれていますが、実際には別の場所(現在の市役所の場所である南瓦町)に建てられました。そのように、実際とは異なる景観も描かれていますが、史料批判をしながら読み解くことで、多くの情報を得ることができます。

堺市鳥瞰図を読み解く

1935(昭和10)年に描かれた堺市鳥瞰図印刷図の景観を読み解いていきましょう。戦前の堺を描

●矢内 一磨 (やない かずま)

専門分野/堺地域史

主要著書/『一休派の結衆と史的展開の研究』、『中世・近世堺地域史料の研究』(和泉書院、2017年)



日本の物価

●同志社大学教授 野間 敏克



1.日本の物価がどう測られているか

図1は、日本の物価の代表的な指標である消費者物価指数の変化率を描いたものです。



▲ 図1 日本の消費者物価指数変化率 (月次・前年比)
(総務省統計局)

消費者物価指数の測定は、日本の家庭が何を買っているか調べ、典型的な買い物内容（これを消費バスケットと言います）を定めることから始められます。そして、たとえば2020（令和2）年にその内容で買い物をすれば、いくら支出が必要か計算し、その額を100とします。これがその後の物価の基準となります。

消費バスケットに入った商品の価格を、毎年毎月、全国の商店の店頭やネットで調査し、基準と同じ内容の買い物をした場合の支出額を集計します。基準の年よりも支出額が増えていれば指数は100より大きく、支出額が減っていれば100より小さく示されます。これが消費者物価指数です。

2.もうデフレではない

1990年代半ば以降の日本では、消費税率が引き上げられた時を除いて、ほとんど物価が上がりませんでした。2000年代は、かなりの期間物価の下落が続くデフレーション（デフレ）だったとみられています。ところが、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）問題にウクライナ情勢が加わった2022年頃からは、前年比で2~4%の物価

上昇が続いており、もうデフレではないと言われるようになりました。ただし、全ての財やサービスの価格が上がったわけではありません。消費バスケットには多数の商品が含まれており、価格が上がったものも下がったものもあるでしょう。

社会科の授業では、価格は需要と供給で決まると習います。たとえば農産物や原油の価格上昇は、ウクライナやロシアからの供給が減ったためだと説明できそうです。

価格が下落したものもあります。たとえばコロナ禍でステイホームの時には、出張や観光の需要が激減したため、ホテル宿泊料金は急落しました。

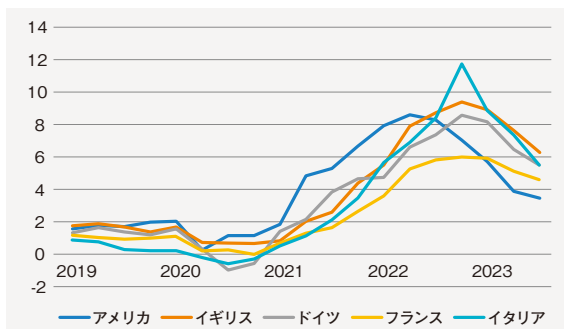
コロナによって経済活動が停滞すると、全体として需要が減少するものの方が多く、物価は低下するとみられていました。実際、日本では2020~21年前半まで物価が低下しました。

しかし図1をよく見ると、2021年後半には徐々に物価が上昇しています。この時期、コロナ収束はまだ見通せていませんし、ウクライナ侵攻もまだ始まっていないのに、物価が上がり始めているのです。

3.世界中で供給不足とコスト増大

欧米諸国では、日本よりかなり早く物価上昇が始まりました。欧米各国の消費者物価指数変化率を描いた図2をみると、2020年末にはもう物価が上がり始め、日本より高い率で上昇しています。各国の消費バスケットに含まれている買い物内容は大きく違いますし、商品による上がり下がりがあるにも関わらず、どの国でも集計された物価指数が上昇しているのです。個々の商品の事情とは別の、世界共通の構造的な要因が働いているのではないのでしょうか。

渡辺努東京大学教授は、『世界インフレの謎』（講談社現代新書）の中で、世界の物価を上昇させる要因について、いくつかの仮説を検討しています。キーワードは「行動変容」と「価格硬直



▲ 図2 欧米各国の消費者物価指数変化率（四半期・前年比）
（総務省統計局）

性」です。

まず消費者の行動が変わりました。モノ消費からサービス消費への移行が、何十年にもわたって徐々に進んでいたのに、コロナによって突然逆転したのです。対面で提供されるサービス消費が激減し、ステイホームのための買いためや電化製品需要が増加しました。モノの価格が上がりサービス価格が低下するはずですが、サービス提供のコストの大部分は人件費です。どの国でも賃金は下がりやすく硬直的なため、サービス価格は需要の減少の割には下がりません。モノの価格は大きく上がり、サービス価格は下がらず、全体として物価が上昇したというのです。

二つ目は労働者の行動変容です。コロナ問題で離職者や退職者が増加しただけでなく、コロナがほぼ沈静化した2023年になっても、労働者は職場に戻ってきませんでした。そのため、ただでさえ下がりにくい賃金が、いっそう下方硬直的になり、欧米諸国では平均賃金が上がっています。それがコストとなって価格に上乗せされます。

三つ目は企業の行動が変わったことによるコスト増加です。自由貿易体制のもと、世界の大企業は国際分業を進めてきました。できるだけ効率的な生産・流通・販売ができるように、グローバル・サプライ・チェーンを構築してきたのです。それによって安い製品が各国に普及し、物価を抑える方向に働いていました。

しかしすでにコロナ前には、グローバル化に逆行する動きもみられました。米中の貿易戦争や英国のEU離脱のように、安全保障や国内経済の安定を重視する傾向が強まっていたのです。さらにコ

●野間 敏克（のまとしかつ）

専門／地域金融

主要著書／『金融と社会』（放送大学教育振興会、2020年）、『金融の仕組みと働き』（有斐閣、2017年、共著）、『入門・日本経済第6版』（有斐閣、2020年、分担執筆）など
日本文教出版『中学社会』著者



ロナでサプライチェーンが分断され、ウクライナ情勢で一段と安全保障の観点が強まりました。効率性が下がり、生産コストは増大せざるをえません。

4. 上がりにくい日本の物価

日本の物価上昇にも同様に三つの要因が働いていると考えられます。それでも欧米諸国に比べ上昇率が低く、デフレに戻る心配が無くなったわけではありません。

心配する最大の理由は、1990年代半ばから物価がほとんど上がらなかった日本人の経験にあります。今の物価上昇は一時的なもので、いずれまた物価は上がらなくなると多くの日本人が考えると、今は買うのを我慢して消費を先延ばしにするかもしれません。

生まれてからずっと物価が上がらなかった若い世代には、それが常態だという感覚が定着しているでしょう。1970年代のインフレを経験した高齢世代は、あの頃から50年がたって年金生活に入ると、インフレよりデフレを望みます。

いずれの世代も価格に敏感で、少しでも上がると買うのを我慢するか、もっと安い店を探すという行動をとっているという指摘もあります。お店の側でも、価格に敏感な客に逃げられまいと値上げをためらいます。日本でなかなか物価が上がりにくいのは、消費者や店のそのような行動パターンが影響している可能性があります。

多くの経済学者は、デフレよりも2%程度のインフレのほうが、経済全体にとって好ましいと考えています。日本の物価を適度に安定的に保つために必要なのは、賃金と物価の好循環です。前回の社会科NAVIで取り上げた日本銀行も、賃金の引き上げを経済界に求めている政府もそれを願っていることでしょう。

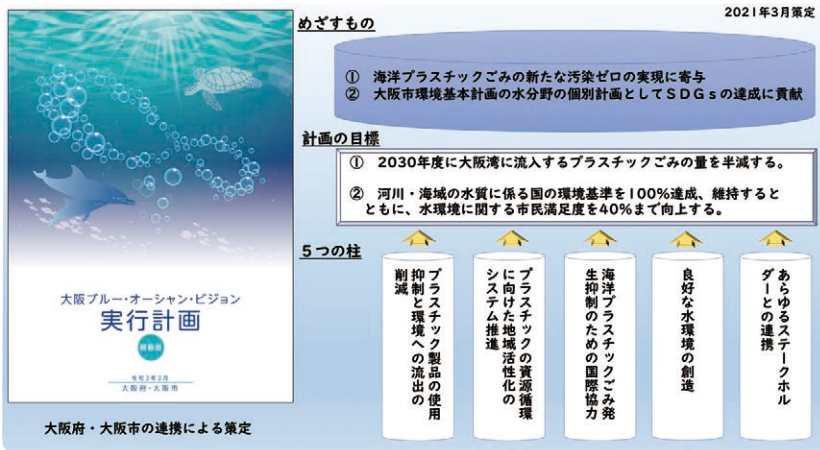
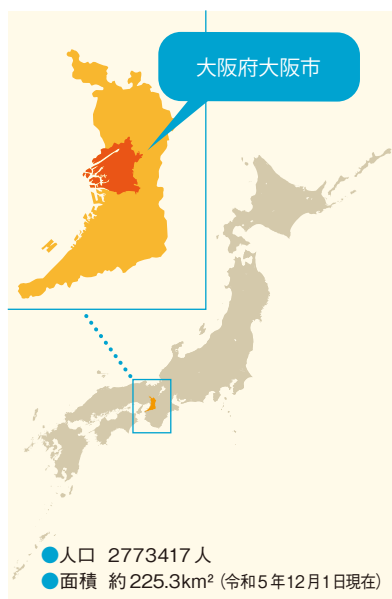


(<https://www.un.org/sustainabledevelopment/news/communications-material/>)
The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.

●大阪府環境局環境管理部環境管理課 水環境保全グループ

世界で起こっている 海洋プラスチックごみ問題

海洋へ流出するプラスチックごみは世界全体で年間約800万トン（2016年世界経済フォーラム）と推計されており、このままでは2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋に蓄積すると予測されるなど、地球規模での環境汚染によって生態系、生活環境、漁業、観光などへの悪影響が懸念されています。2019年6月のG20大阪サミットにおいては、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロとすることをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」がG20首脳宣言において共有されました。また2023（令和5）年5月のG7広島サミットでは10年前倒しの2040年までとする目標で合意され、ますます海洋プラスチックごみ問題が注目されています。



▲大阪ブルー・オーシャン・ビジョン実行計画の概略

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画

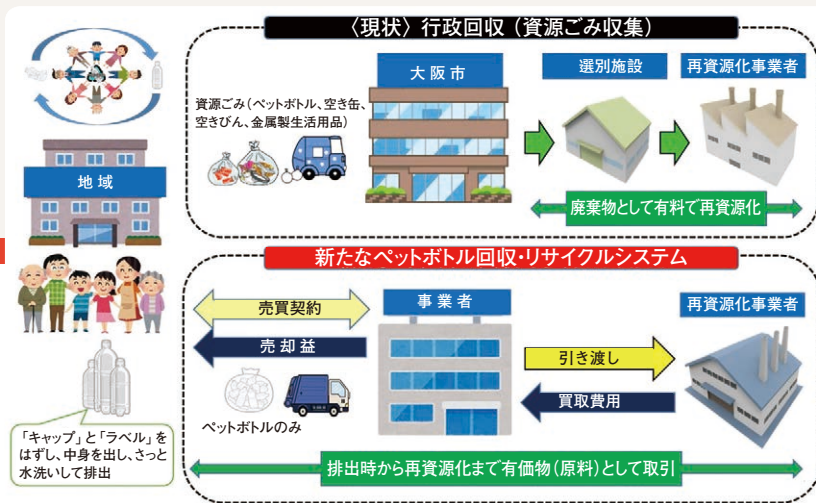
大阪府、大阪市ではこのような状況を踏まえ、G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地としてSDGs先進都市をめざすため、2019年1月に府市共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行うとともに、2021年3月に共同で「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画を策定しました。

本計画は、同ビジョンが掲げる「2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロ」の実現に寄与するとともに、2019年12月に大阪市が新たに策定した「大阪市環境基本計画」の水分野の個別計画としてSDGsの達成への貢献をめざすものです。計画期間は2030年度までとし、目標の「大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する」等の達成に向け、上記の図に示している五つを柱に掲げ、取り組みを積極的

に展開しています。今回、特にSDGsの考え方である経済・社会・環境の三側面において統合された形で課題を解決していく取り組みであるプラスチック循環に向けた地域活性化のシステム推進の施策『新たなペットボトル回収・リサイクルシステム（みんなであつなげるペットボトル循環プロジェクト）』をご紹介します。

ボトルからボトルへ 新たなシステム!

家庭から排出されるペットボトルは資源ごみとして大阪市が回収していますが、本システムは地域コミュニティと参画事業者*が連携協働して有価物（原料）として回収し、売却益【経済】を地域に還元することで地域【社会】に貢献するとともに、ペットボトルの資源循環【環境】を推進するもので、現在市内145地域で導入されています。これによりペットボトルのリサイクル



▲ 大阪市の新たなペットボトル回収・リサイクルシステムのイメージ図



▲ プラスチックごみを減らすために私たちができること

ルにコミュニティビジネスの要素を取り入れることで自律的な地域運営へ寄与し、活力ある地域づくりに貢献することができます。さらに、分別の徹底により、ペットボトルのみで回収することにより、ボトルからボトルをつくりといったマテリアルリサイクルを促進し、プラスチックごみの削減に取り組んでいます。

*「参画事業者募集要項」に従って応募し、大阪市が事業連携協定を締結した事業者

ビジョン実現に向けて

海洋プラスチックごみの削減や良好な水環境の創造のためには、個々の取り組みに留まらず、あらゆるステークホルダー同士が連携することが重要です。このため大阪府・大阪市の環境部局がハブとなって各団体等の取り組み状況を把握し、関連する団体等の活動につなげていくとともに、国や関係自治体とも連

携を図っています。また大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現には、プラスチックごみを発生させないライフスタイルへの転換が重要です。一緒にできることから一つずつ取り組んでいきましょう。

●問い合わせ先
 大阪市環境局環境管理部環境管理課
 水環境保全グループ
 〒559-0034
 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10号
 ATCビル O's棟南館
 TEL 06-6615-7984

教材化のポイント



●広島修道大学教授 永田 成文

1. 海の豊かさの持続にかかわるステークホルダー

海洋プラスチックごみ問題は地球的課題であると同時に地域の課題である。「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」は、SDGsの14「海の豊かさを守ろう」とかかわり、大阪府と大阪市がハブとなって関係事業者や市民を巻き込むことにより大阪湾の海の豊かさを持続させていこうとしている。

このビジョンの実現に向けて、五つの柱を示した実施計画が策定され、SDGsの期限と同じ2030年に大阪湾に流入するプラスチックごみを半減することを目標とする。この取り組み事例の一つが大阪市の「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」である。SDGsの12「つくる責任 つかう責任」とかかわり、これまで資源ごみとして行政が回収してきたペットボトルを事業者と市民が連携して回収する。

2. 解決に向けたステークホルダー連携と国際協力

小学校社会科第6学年の「国や地方公共団体の政治」で、ステークホルダーである行政と事業者と市民が連携してプラスチックごみへ対応することにより、地域活性化につながることに着目させたい。

海洋プラスチック汚染について、中学校社会科地理的分野の「世界・日本の諸地域」で、地球的課題として様々な地域における表出の特徴を捉えたり、公民的分野の「世界平和と人類の福祉の増大」で、解決に向けた国際協力を考察・構想させたい。

●永田 成文 (ながたしげふみ)

小・中・高等学校の教員、三重大学の教員を経て、現在、広島修道大学教授 専門は社会科教育学(地理 ESD 授業)



令和6年度版
小学校

日本文教出版 各種資料のご案内

デジタル教科書・教材

POINT

理解を深める映像コンテンツが豊富
好評の「凡例別表示」もしっかり網羅



▲凡例別表示



▲見開きの学習の流れがわかる1文節表示

中学校

社会科NAVIプラス



my実践事例



指導と評価の一体化、ポートフォリオを活用した学習方法と学習評価、一人一台端末の活用方法、SDGsの4テーマについてわかりやすく解説



全国の先生の発表の場として、日文サイトに実践事例を掲載！

Vol.35 P14「ようこそ！歴史史料の世界へ」において、「日赤の職員総数」とすべきところ、「日本の職員総数」となっておりました。訂正させていただきますとともに、お詫びいたします。

社会科NAVI Vol.36

日文教育資料 [小・中学校社会]
令和6年(2024年)1月19日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33695

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690